

「不祥事根絶」のその先に

本校教職員は、日頃から公務員として、また学校教育に携わる者として、法令順守に努めかつ行動に責任を持ち、教育活動に専心しています。

しかし、残念ながら県内外の教職員全員が同じ意識を持っているとは限らず、一部の教職員による不祥事が起こる度に、教育並びに教育公務員に対する信頼が失墜することは誠に遺憾です。本校教職員は、互いを信頼し合い、誇りを持って教育に取り組む教職員集団であり続けていきたいと強く願っています。

そのため、これまでの取り組みを再確認し、今後も本校に勤務するすべての教職員が共通認識のもとで行動し、不祥事が生じないようにすることを確認します。そして、「不祥事の根絶」により、「生徒と教職員が生き生きと教育活動を行える学校作り」の一助とします。

「コンプライアンス三ない運動」と「メンタルヘルス三か条」

非違行為の起こる三要素が「動機・機会・正当化」と言われています。本校では「正当化しない・機会を作らない・動機を作らない」という「コンプライアンス三ない運動」の取り組みを行っています。併せて、できるだけストレスや不安のない職場づくりのために「メンタルヘルス三か条」を掲げています。

1【正当化しない】

・校内研修等の充実で、法的根拠を確認し非違行為を起こしてしまった際の影響を理解し、「これくらいは・他もやっているから・人には迷惑をかけていない」といった認識を変える。そして、教職員は年に1回「不祥事防止のためのチェックリスト」を利用して、自己点検を行う。

2【機会を作らない】 ※この項目は、別途ルールを作成し補完予定

- ・個人情報の取り扱いや公金管理はマニュアル遵守
- ・複数人による生徒支援活動、会計処理、メール送信確認の徹底
- ・準備室等での面接指導等は、学年主任等へ報告し行う
- ・スマートフォン等の使用ルールの周知徹底
- ・SNSの利用による生徒・保護者とのやり取りは、管理職に届けて許可のある場合のみ利用可とし、私的なものは原則禁止
- ・安心安全な教育活動のために、「Global.G.A.P.に基づいた農場管理」や「HACCPの考えを取り入れた衛生管理」などと併せて、多種職の職場だからこそ「全員で見守り・支援する体制」構築

3【動機を作らない】

- ・ストレスや不安のできだけない職場づくりで、ウェル・ビーイングの向上
→行き過ぎた個業（孤業、固業、古業、粉業）をなくすために、クラス、教科担任等を一人で悩ませない、考えさせない、対応させない生徒支援チームの構築

→「メンタルヘルス三か条」

- (1)「不調を予防・早期発見できる職場づくり」
- (2)「不調を抱えながらも働けるやさしい職場づくり」
- (3)「疲れ切る前に SOS を出せる・キャッチできる職場づくり」

小規模校である利点を生かし、コミュニケーションを豊富にすることで、「全員で見守り・支援する」体制とし、職場で孤独感や孤立感を持たせずに、みんなで見守る雰囲気づくりをして、安心感を持ってもらうことで、メンタルヘルスを向上させ、ストレスや不安を少しでも軽減できる職場とする。